

発達論 A (2)

[履修要件]

『発達論 B』（後期開講科目）（いわば未来）を経験することによって、この『発達論 A』（いわば過去）の意義がより深く理解できるので、『発達論 B』との連続した履修を推奨します。
予備知識は特に必要ありません。文系・理系にかかわらず履修を歓迎します。

[成績評価の方法・観点]

次のような発達の力量の形成水準と特質を評価します。

- 1) 人間の発達の大切さと思議さをとらえ、重要な問題を発見していく力。
- 2) 主体的・自発的に柔軟に視点を換えて、新たな問題を構想していく力。
- 3) 仮説を設定し、資料を収集して、事実をもとに丁寧に論理的に筋道立てて結論を導く力。

授業ごとのミニレポート（40%）と、期末のレポート試験（60%）をもとに、これらの力量の到達度を総合的に評価し、教育の課題を考察します。

[教科書]

講義中にプリントを配布します。
ビデオ映像資料を活用します。

[参考書等]

（参考書）
田中真介・乳幼児保育研究会『発達がわかれば子どもが見える』（ぎょうせい）
田中真介・乳幼児保育研究会『続・発達がわかれば子どもが見える』（ぎょうせい）
田中昌人・田中杉恵・有田知行（写真）『子どもの発達と診断（5分冊）』（大月書店）
田中昌人『子どもの発達と健康教育』（クリエイツかもがわ他）
以上のほか、授業中に適宜紹介します。

[授業外学修（予習・復習）等]

授業中に指示します。

[その他（オフィスアワー等）]

文系の学生には、心身の諸機能の発達の神経科学的・生理学的なしくみについて理解を深めることを希望しています。
理系の学生には、発達を支える諸機能がどのようにして社会的に形成され充実していくかについて理解を深めていくことを期待しています。